

令和7年度

市政モニターアンケート調査結果  
【地域包括ケアシステムや人生会議（ACP）について】



長 崎 市

地域包括ケアシステム推進室

## 1. 調査の目的

長崎市では、高齢化が進む中で、市民の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、様々な取り組みを進めています。

このアンケートは、市民の皆様の地域包括ケアシステムと人生会議（ACP）に対する認知度、ニーズを把握し、より多くの方に活用していただけるよう、効果的な普及方法や支援体制を検討することを目的としています。

## 2. 調査の概要

調査期間：令和7年12月5日～令和7年12月21日

送付数：261人

回答率：79.7%（208人）

（郵送回答 117人 インターネット回答 91人）

## 3. 調査結果

### 【地域包括ケアシステム・人生会議（ACP）の認知度の現状】

地域包括ケアシステムについての認知度は「言葉も内容も知っている」と回答した人は35.3%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した人が36.2%で、言葉は認識されているものの、具体的な内容までは理解されていないことが分かりました。

人生会議（ACP）はさらに認知度が低く、「言葉も内容も知っている」と回答した人は12.5%、「知らない」と回答した方が73.1%で多くの方が認知していない状況であり、引き続き積極的な普及啓発が必要です。

### 【人生会議（ACP）の取組みについて】

もしもの時の医療や介護について「話し合ったことがある」と回答した人は40.6%（繰り返し話し合っている3.4%、話し合ったことがある37.2%の合計）ですが、「自分では考えているが話し合ったことがない」が43.0%と割合が最も高いです。

話し合いが進まない理由として、「まだ必要性を感じない」（46.3%）「何から始めればよいかわからない」（34.1%）「家族と話し合うきっかけがない」（32.5%）と回答した人が上位であり、心理的ハードルと実行段階でのサポートが課題となっています。

### 【「元気なうちから手帳」の活用状況】

「内容を知っており、実際に活用している」と回答した人は2.4%に過ぎず、78.2%が「言葉も内容も知らない」と回答しています。

一方で「内容を知っているが、まだ活用していない」層が15.5%いることから、認知度向上と並行して、使いやすさの改善やアクセス方法の周知が効果的と考えられます。

#### 【情報入手経路と普及方法】

市民から強く支持されている効果的な普及方法は「市の広報紙での継続的な情報発信」（65.4%）「医療機関・介護保険サービス事業所等からの案内」（44.2%）「わかりやすいパンフレット・動画の作成」（42.8%）でした。

一方、「市の公式ウェブサイトや SNS での発信」（29.3%）や「元気なうちから手帳のデジタル版の提供」（21.6%）への支持は相対的に低く、特に高齢者層においてはアナログメディアへのニーズが高いことが分かりました。

#### 【今後の課題】

市民の認知度向上、実行に向けた「きっかけ」と「サポート体制」の強化、医療・介護現場との連携強化、年代別に適切な情報提供方法の工夫が必要と考えられます。

## 4. 調査結果の見方

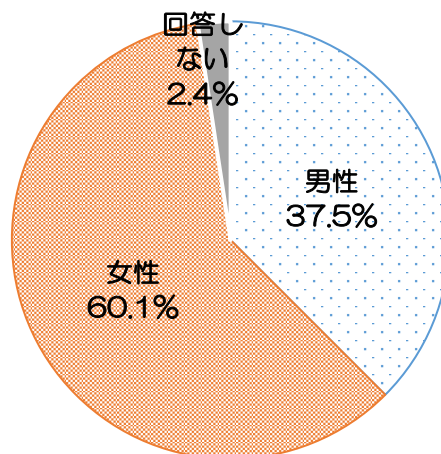
調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても 100 パーセントに合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が 100 パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる問については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

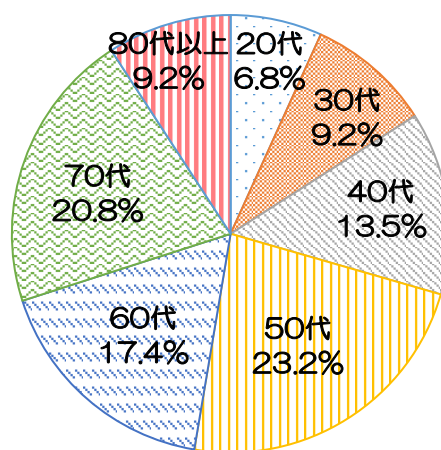
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	78人	37.5%
女性	125人	60.1%
回答しない	5人	2.4%
合計	208人	100.0%



問2 あなたの年齢を選択してください。

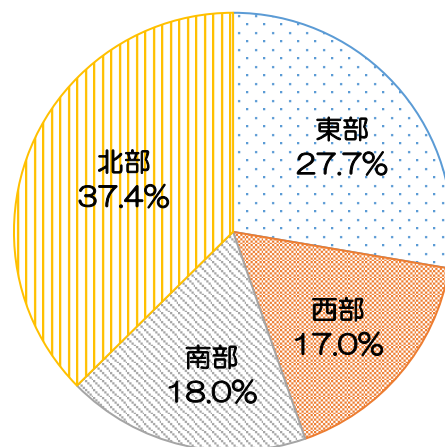
選択肢	回答者数	割合
20代	14人	6.8%
30代	19人	9.2%
40代	28人	13.5%
50代	48人	23.2%
60代	36人	17.4%
70代	43人	20.8%
80代以上	19人	9.2%
合計	207人	100.1%



(無回答 1人)

問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	57人	27.7%
西部	35人	17.0%
南部	37人	18.0%
北部	77人	37.4%
合計	206人	100.1%



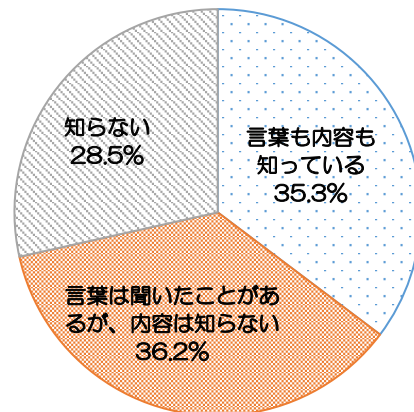
(無回答 2人)

※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問13 「地域包括ケアシステム」を知っていますか。(当てはまるものを1つ回答)

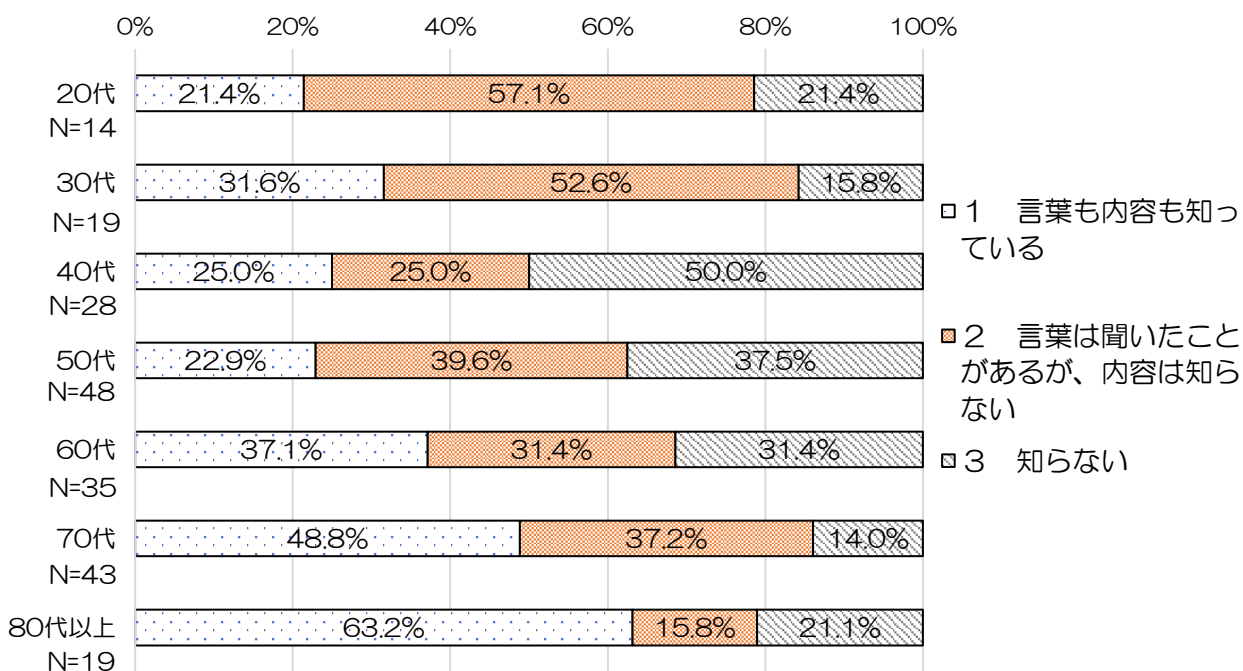
※「地域包括ケアシステム」とは、健康なときも要介護になっても住み慣れた地域で、できる限り人生の最期まで暮らし続けられるよう、医療・介護・介護予防・生活支援等を一体的に提供する仕組みのこと。

選択肢	回答者数	割合
言葉も内容も知っている	73人	35.3%
言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない	75人	36.2%
知らない	59人	28.5%
合計	207人	100.0%



(無回答 1人)

<年齢別割合>



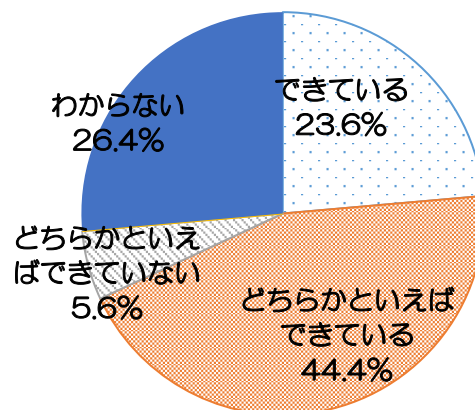
地域包括ケアシステムについて、「言葉も内容も知っている」と回答した人は35.3%で、約3分の1の市民に認知されている状況です。一方、「聞いたことがあるが、内容は知らない」と回答した人が36.2%で、言葉は認識されているものの、具体的な内容までは理解されていないことが分かりました。

年代別では、高齢層（70代48.8%、80代以上63.2%）で認知度が高く、一方で40～50代での認知度が22～25%と最も低い特徴が見られます。これは、高齢層が自身の医療や介護ニーズから情報収集の動機が高い一方で、40～50代では自身がまだ健康と考え、関心が低い傾向があることが推察されます。

問14 「問13」で「1 言葉も内容も知っている」と回答された方に質問です。  
 あなたのお住まいの地域の「地域包括ケアシステム」はできていると思いますか。

(当てはまるものを1つ回答)

選択肢	回答者数	割合
できている	17人	23.6%
どちらかといえばできている	32人	44.4%
どちらかといえばできていない	4人	5.6%
できていない	0人	0%
わからない	19人	26.4%
合計	72人	100.0%



(回答者数 72人、無回答1人)

「言葉も内容も知っている」と回答した人のうち、23.6%の人が、自分の地域で地域包括ケアシステムができていると実感しています。

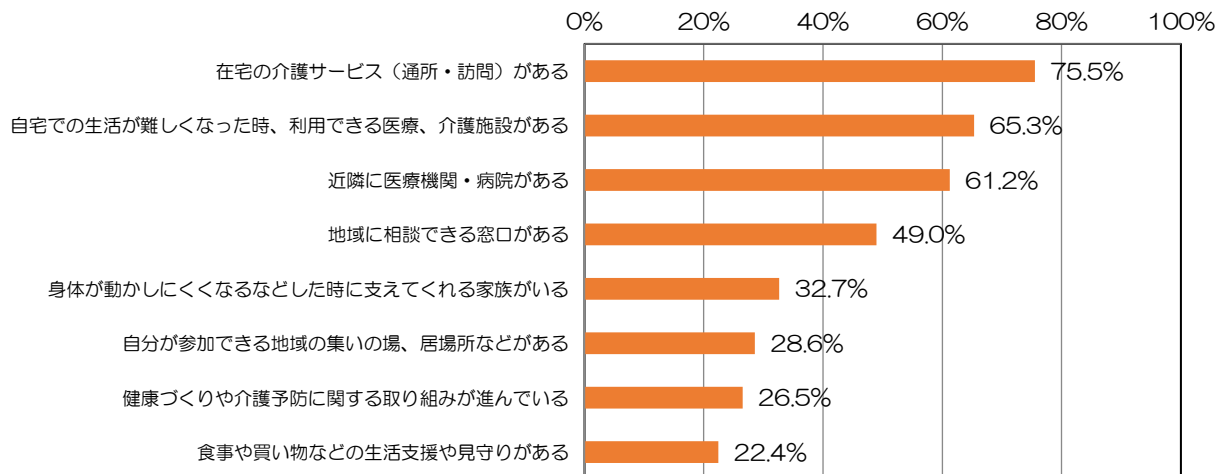
ただし、26.4%が「わからない」と回答しており、市民に地域包括ケアシステムの具体的な取り組み状況が十分に理解されていないことが分かりました。

問15 問14で「1 できている」「2 どちらかといえばできている」と回答された方に質問です。

あなたのお住まいの地域の「地域包括ケアシステム」ができていると実感するのは次のどの点ですか。(複数回答可)

選択肢	回答者数	割合
在宅の介護サービス（通所・訪問）がある	37人	75.5%
自宅での生活が難しくなった時、利用できる医療、介護施設がある	32人	65.3%
近隣に医療機関・病院がある	30人	61.2%
地域に相談できる窓口がある	24人	49.0%
身体が動かしにくくなるなどした時に支えてくれる家族がいる	16人	32.7%
自分が参加できる地域の集いの場、居場所などがある	14人	28.6%
健康づくりや介護予防に関する取り組みが進んでいる	13人	26.5%
食事や買い物などの生活支援や見守りがある	11人	22.4%

(回答者数 49人、有効回答数 177)



地域包括ケアシステムができていると実感する人（「できている」「どちらかといえばできている」の合計（49人））に最も支持されているのは「在宅の介護サービス（75.5%）」と「自宅での生活が難しくなった時の医療・介護施設（65.3%）」です。これらは物理的・制度的インフラの充実が実感しやすいことを示しています。

一方、「地域に相談できる窓口がある（49.0%）」「身体が動かしにくくなるなどした時に支えてくれる家族（32.7%）」「参加できる地域の集いの場（28.6%）」など、社会的支援やコミュニティ機能の実感度が相対的に低くなっています。

これは、医療・介護サービスのような公的なサービスの認知度に比べ、地域での支え合いの場やボランティア等の身近なサポートが十分に周知・認知されていない可能性が推察されます。

問16 問14で「3 どちらかといえばできていない」「4 できていない」と回答された方に質問です。

あなたのお住まいの地域の「地域包括ケアシステム」ができていないと実感するのは次のどの点ですか。（複数回答可）

選択肢	回答者数	割合
身体が動かしにくくなるなどした時に支えてくれる身近な家族がない	2	50.0%
在宅の介護サービスに不安がある	1	25.0%
近隣に病院がないなど医療に不安がある	1	25.0%
健康づくりや介護予防に関する取組みが進んでいない	1	25.0%
自分が参加できる地域の集いの場、居場所などが無い	1	25.0%
食事や買い物などの生活支援や見守りに不安がある	0	0.0%
地域に相談できる窓口がない	0	0.0%
自宅での生活が難しくなった時、医療や介護に不安がある	0	0.0%
その他	2	50.0%

（回答者数 4人、有効回答数 8）

※「その他」の意見

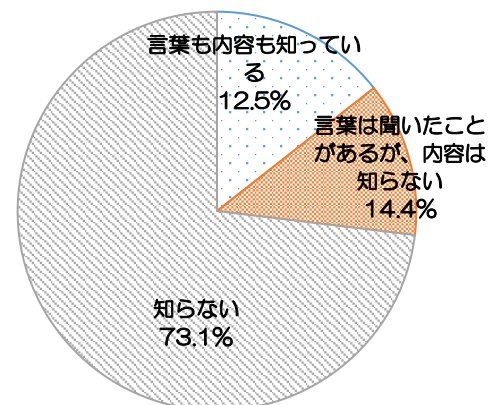
- ・今は自立出来ているので不要と思っています。
- ・介護サービスは現在受けていて大変助かっている。訪問は休日はどうなるか不安。

問17 「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」について、知っていますか。

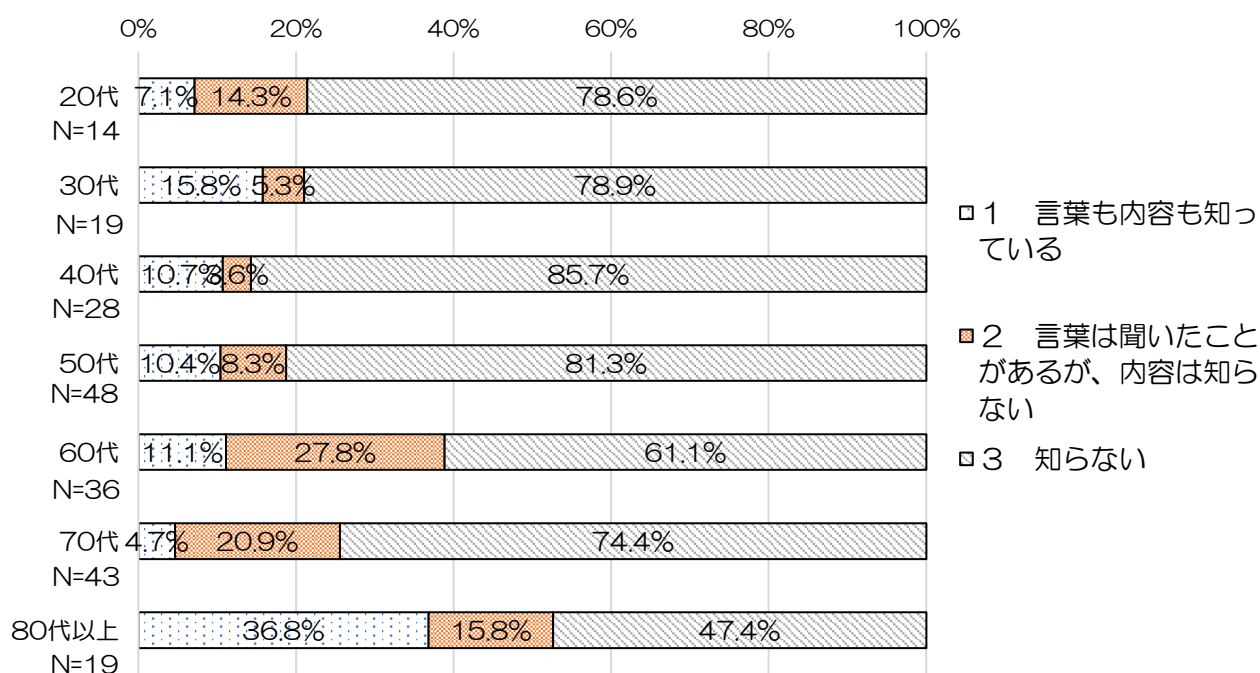
（当てはまるものを1つ回答）

※「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」とは、もしもの時の医療や介護、これからの生き方について、ご家族などの大切な方や、医療・介護に関わる方とあらかじめ繰り返し話し合うこと。

選択肢	回答者数	割合
言葉も内容も知っている	26人	12.5%
言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない	30人	14.4%
知らない	152人	73.1%
合計	208人	100.0%



### <年齢別割合>



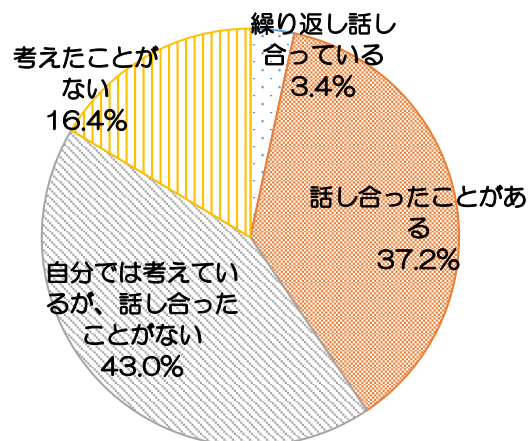
人生会議（ACP）について、「言葉も内容も知っている」と回答した人は12.5%であり、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」（14.4%）「知らない」（73.1%）と回答した人は合わせて87.5%で、まだまだ認知度が低い状況であることが分かりました。

人生会議は、今後の医療や介護における市民の想いを尊重する重要な取り組みであり、より積極的な普及啓発が必要です。

年代別では、「言葉も内容も知っている」と回答した方が80代以上で36.8%と突出して高い認知度を示す一方、70代で4.7%と最も低い傾向が見られます。このことから、終末医療の意思決定機会が80代で増加している可能性があることが推察されます。また、今後も高齢者だけでなく、幅広い世代に向けた普及啓発が重要であると考えられます。

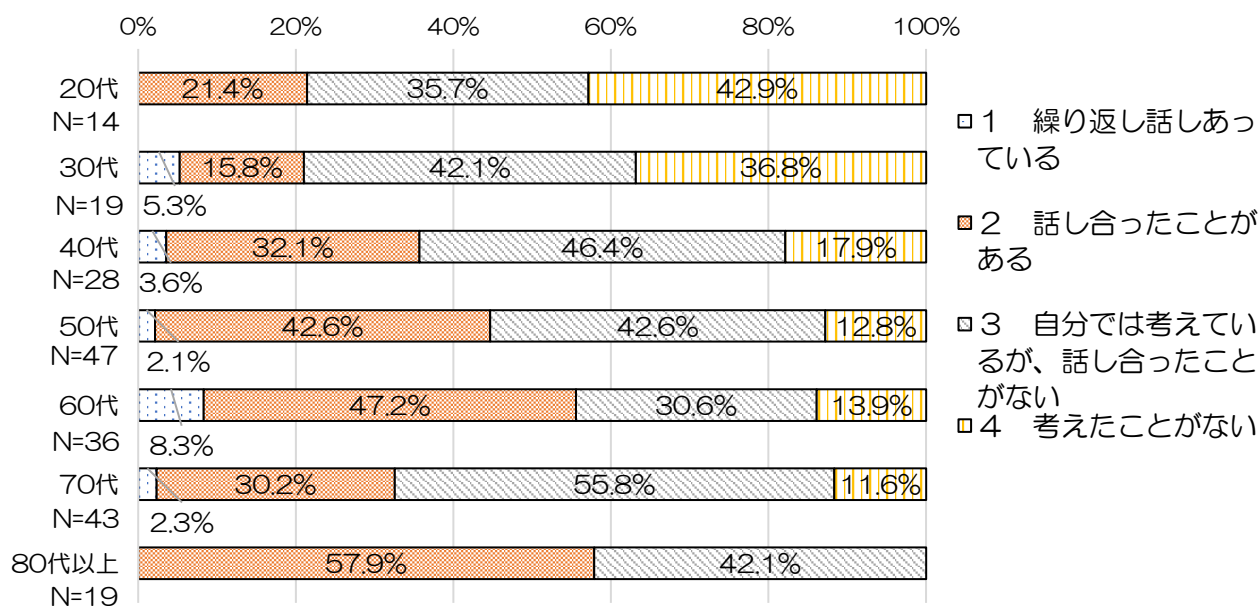
問18 もしものときの医療や介護、これからの生き方について（ご自身・ご家族含む）、ご家族や医療・介護に関わる方などと話し合ったことはありますか。（当てはまるものを1つ回答）

選択肢	回答者数	割合
繰り返し話し合っている	7	3.4%
話し合ったことがある	77	37.2%
自分では考えているが、話し合ったことがない	89	43.0%
考えたことがない	34	16.4%
合計	207人	100.0%



（無回答 1人）

### <年齢別割合>



合計 40.6%（「繰り返し話し合っている」「話し合ったことがある」）の市民が家族や医療関係者と何らかの話し合いを実施しており、認知度の低さにもかかわらず、実際の行動には一定の取り組みが見られます。

一方、43.0%が「自分では考えているが話し合ったことがない」と回答しており、個人の思考段階にとどまり、家族などとのコミュニケーションに至っていない層が多くなっています。これは、考える環境は整いつつあるものの、話し合いの実行に向けた「きっかけ」や「サポート」が不足していることを示唆しています。

年代別では、「考えたことがない」割合は年齢が上がるにつれて低くなり、50代、60代、80代以上での「繰り返し話し合っている」「話し合ったことがある」割合（44～57%）が高くなっています。全体的に「自分では考えているが話し合ったことがない」割合（30～55%）が高くなっており、各年代に合わせた話し合いのきっかけづくりのための支援が重要であることが分かりました。

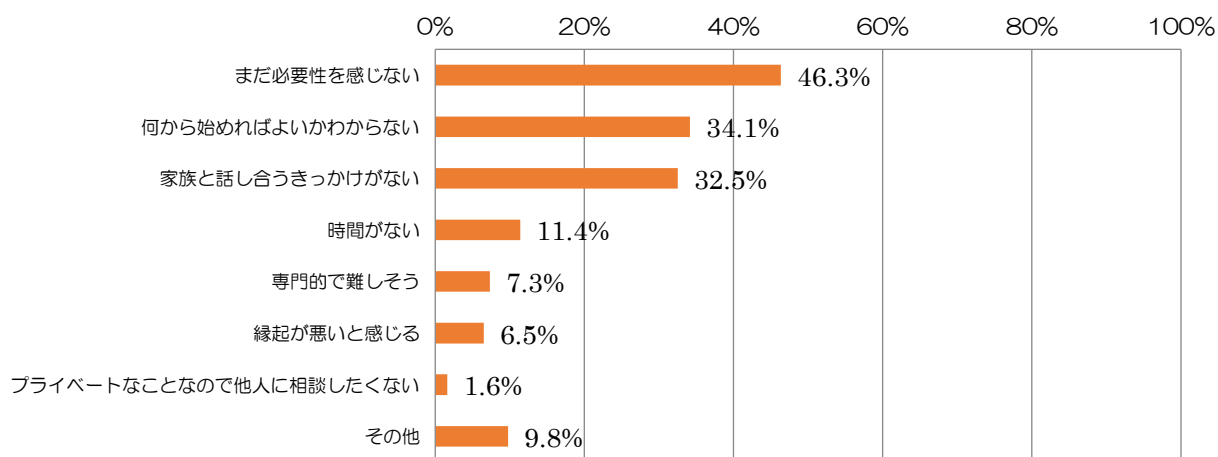
問19 問18で「3 自分では考えているが、話し合ったことがない」「4 考えたことがない」と回答した方に質問です。話し合ったり考えたことがない理由は何ですか。(複数回答可)

選択肢	回答者数	割合
まだ必要性を感じない	57人	46.3%
何から始めればよいかわからない	42人	34.1%
家族と話し合うきっかけがない	40人	32.5%
時間がない	14人	11.4%
専門的で難しそう	9人	7.3%
縁起が悪いと感じる	8人	6.5%
プライベートなことなので他人に相談したくない	2人	1.6%
その他	12人	9.8%

(回答者数 123人、有効回答数 184)

※「その他」の意見

- ・必要性は感じるが、なかなか話をしようとするタイミングが難しい
- ・家族が近くにいない ・独居である
- ・元気なうちから手帳に記入していますが、よく考えを深めたいと思っている など



話し合い・検討が進まない理由として、「まだ必要性を感じない」が最も高く、緊急性や重要性の認識が不足していることを示唆しています。

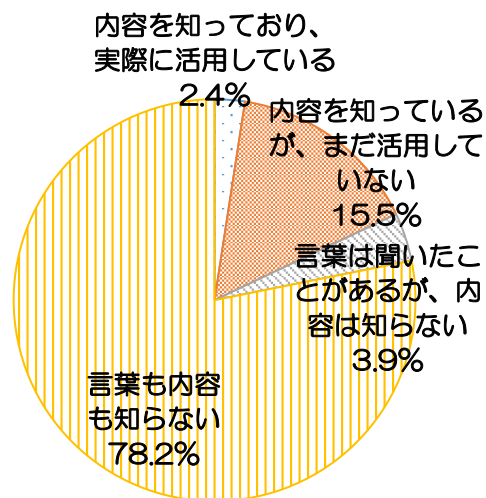
また、「何から始めればよいかわからない」「家族と話し合うきっかけがない」という、実行に必要な具体的な情報やきっかけが不足しているということがわかりました。

相談時や出前講座での丁寧な説明を通じた必要性の認識向上、手軽に始められるツール（「元気なうちから手帳」など）の活用促進、家族での会話のきっかけづくりが重要と考えます。

問20 「元気なうちから手帳」について知っていますか。(当てはまるもの1つ回答)

※「元気なうちから手帳」とは、長崎市で作成している人生会議（ACP）のきっかけづくりのための、ご自身の意思や希望を記録しておける手帳のこと。

選択肢	回答者数	割合
内容を知っており、実際に活用している	5人	2.4%
内容を知っているが、まだ活用していない	32人	15.5%
言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない	8人	3.9%
言葉も内容も知らない	161人	78.2%
合計	206人	100.0%



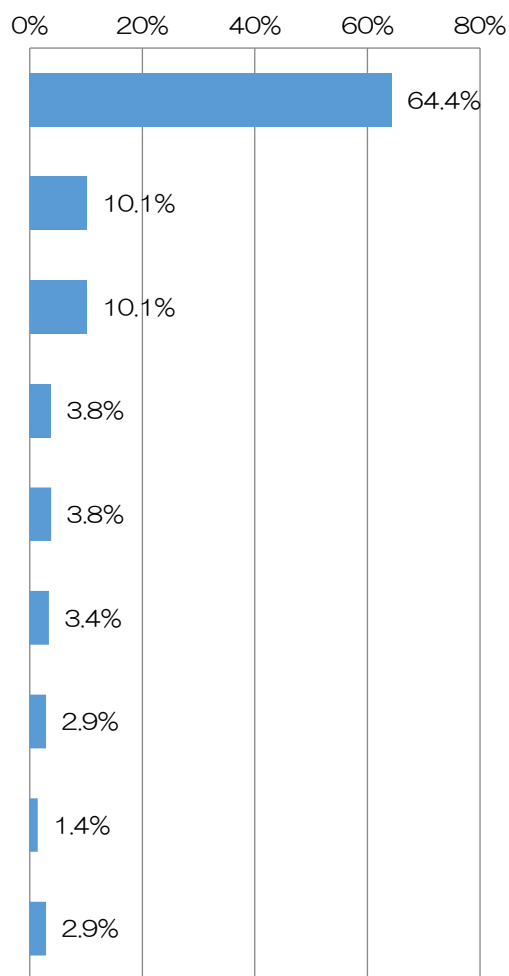
(無回答 2人)

「言葉も内容も知らない」が78.2%と最も多く、人生会議の認知度の低さと相まって、市民が具体的な実行ツールにアクセスできていない現状を示しています。

既に「内容を知っているが、まだ活用していない」(15.5%)が一定数いることから、認知度の向上と合わせて、使いやすさの改善やアクセス方法の周知が効果的と考えられます。

問21 「人生会議（ACP）」や「元気なうちから手帳」について、どこで情報を得ましたか。  
（複数回答可）

選択肢	回答者数	割合
情報を得たことがない	134	64.4%
市の広報紙	21	10.1%
医療機関（病院・診療所） や介護保険サービス事業所	21	10.1%
地域包括支援センター	8	3.8%
講演会・セミナー・市の出 前講座など	8	3.8%
テレビ・新聞・雑誌	7	3.4%
家族・友人・知人	6	2.9%
市の公式ウェブサイト・ SNS（LINE や Facebook）	3	1.4%
その他	6	2.9%



（回答者数 208 人、有効回答数 214）

※「その他」の意見

- ・仕事柄
- ・老人会
- ・ふれあいセンター
- など

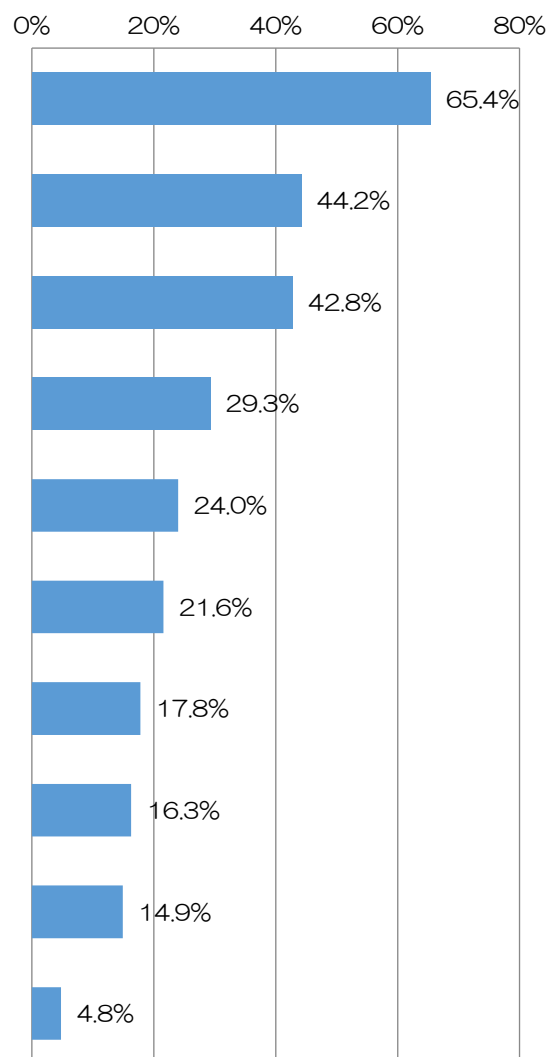
「情報を得たことがない」が64.4%と大多数を占め、人生会議や元気なうちから手帳に関する情報が市民に十分に届いていない現状があらかになっています。

情報を得た層の内訳としては、市の広報紙、医療機関・介護事業所がそれぞれ10.1%と同等の割合となっています。

医療機関・介護事業所からの情報取得が相対的に高いことから、医療・介護現場との連携強化が有効な普及方法であることを示唆しています。

問22 「人生会議（ACP）」や「元気なうちから手帳」の普及のために、どのような取り組みが効果的だと思いますか。（複数回答可）

選択肢	回答者数	割合
市の広報紙での継続的な情報発信	136	65.4%
医療機関や介護保険サービス事業所等からの案内	92	44.2%
わかりやすいパンフレット・動画の作成	89	42.8%
市の公式ウェブサイトやSNS（LINE や Facebook）での発信	61	29.3%
学校教育での取り扱い	50	24.0%
元気なうちから手帳のデジタル版の提供	45	21.6%
地域での説明会・相談会の開催（出前講座等）	37	17.8%
市の相談窓口からの案内	34	16.3%
地域包括支援センターでの個別相談	31	14.9%
その他	10	4.8%



（回答者数 208 人、有効回答数 585）

※その他の意見

- ・テレビ CM 等メディア利用での周知
- ・各家庭に広報誌を配る
- ・フィットネスジム、カルチャースクール先にポスター掲示
- ・職場からのお知らせ

複数回答の結果、市民が期待する普及方法は、「市の広報紙での継続的な情報発信」（65.4%）「医療機関・介護事業所等からの案内」（44.2%）「わかりやすいパンフレット・動画の作成」（42.8%）「市の公式ウェブサイトや SNS 発信」（29.3%）「元気なうちから手帳のデジタル版提供」（21.6%）となっています。

広報紙を主軸としつつ、医療・介護現場との連携を強化し、わかりやすいパンフレットや動画資料の充実や必要な時にアクセスできる環境整備が必要であると考えられます。

問23 これらの制度・取り組みについて、ご意見・ご提案がございましたら自由にお書きください。【自由記述】

【情報発信に関するご意見】

- 市が色々と取り組んでくれているのは分かったが、広報がまだ不足している
- わかりやすいパンフレットなどがあると助かる
- 広報紙での情報発信は工夫が必要 必要な人に確実に配布する方法を検討すべき
- テレビCM などを使って流すと認知が高まると思う

【実行支援に関するご意見】

- 制度としてのハード面を強化するのはもちろん必要だが、本人の気持ちやタイミングなどのソフト面のハードルが高い
- 「終活」という言葉のように大きく広がれば、一気に広がると思う
- 若いうちは中々自分の事として捉えられない。常日頃、定期的に公民館活動として情報提供する仕組みが必要
- 何を書くといいのかがわからない、という層への対応が必要
- ポイント付与など、参加インセンティブの仕組みがあると参加者が増えるのでは
- 若い世代の家庭から考えてもらうような仕組みが必要（年配の世代にしか目がいてない気がする）

【連携・協力体制に関するご意見】

- 病院、介護施設、ケアマネージャーから、家族への発信があれば良い
- 各企業へも制度の紹介をして、社員に伝える試みをしてはどうか
- 自治会等でわかりやすいパンフレット等を配布してはどうだろうか
- 職場や医療機関で内容を説明する動画サイトに飛べるQRコード付きのパンフレットを配布してはどうか
- 各自治会に高齢者が集まって、楽しく過ごせるような場があるといい
- 介護認定を送付時に一緒に送ったり現物を配布したら認知度や使用率が増えると思う

【用語・表現に関するご意見】

- ACPと言われてもピンと来ない。「終活」という名目で促進した方がピンと来る人が多いのでは
- わかりやすいワードを探すなど、認知度を高める工夫が必要

【個人の経験に基づくご意見】

- 私は今回家族の病気をきっかけに終末期に関する話し合いを親族内でしました。なかなかもしもが無いと話題に出すのは難しいが、もしもがきてからでは後手に回ることを実感した
- 元気なうちからの人生会議の大切さを微力ながら発信していきたいと考えている
- 必要な時になると関心が出てきて、自分の方から動いていくと思う